

「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」
(中学校学習指導要領より)

◎例えば、熊本について紹介する場面では・・・ 「話すこと [発表]」

教員が「見方・考え方」を意識しないと・・・

子供が「見方・考え方」を働かせると・・・

熊本の紹介は次のようにします。
I'm going to tell you about Kumamoto.
Kumamoto is famous for ~.
It's ~.
I like it very much.
I hope you'll like it, too.



～に、何を入れようかな。



Today, let's tell Ms.Green about Kumamoto.

I've just come to Kumamoto, so I don't know very much about it.
Please tell me what Kumamoto is famous for.

First, you can ask some questions.

覚えられるかな・・・

グリーン先生の趣味は何かな。

「学校紹介」の経験が生かせそう。

◎例えば、熊本について紹介する場面では、どのような「見方・考え方」をしているのか・・・

子供たちの問い：どうやったら相手にわかりやすく興味をもって聞いてもらえるか？

～特定の話題について～

ここで働く「見方・考え方①」

目的・場面・状況に応じて
・伝えたい「内容」※
・伝えるための「英語表現」

※情報を整理し、考えを形成、再構築

ここで働く
「見方・考え方②」

活動前にトピックや目的は示しますが、英語でどう表現すればよいかは示しません。

まずは取り組ませ、その後英語でどのように表現するかを考えさせます。気付きの体験を多く積ませましょう。

外国語

言語の背景
にある文化

捉える

伝え合う

自分の考えや
気持ち等

【自分自身の考えや思いを主体的に表現できるようになるために大切なこと】

- ①教員が自身の思いを英語で表現すること
→感情豊かに英語で話し、そのことについて子供とやり取りしましょう。
- ②内容を大切にすること
→子供が表現した内容を受け止め、共感したり驚いたり、一緒に笑ったりしましょう。

「見方・考え方を働かせる」授業改善の視点

- ①場面や状況を工夫し、文脈の中で外国語を捉えさせる。
- ②相手の状況を踏まえ、伝えたい「内容」とそれを伝えるための「英語表現」の双方を考えさせる。